

大和マイクロファイナンス・ファンド

お申し込みの際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご確認ください。

投資家の皆さまへ
(販売用資料)



追加型投信／海外／資産複合

※課税上は株式投資信託として取り扱われます。

■目論見書のご請求・
お申し込みは…

大和証券

Daiwa Securities

商号等：大和証券株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第108号
加入協会：日本証券業協会、(社)日本証券投資顧問業協会、
(社)金融先物取引業協会

■設定・運用は…

東京海上アセットマネジメント投信

商号等：東京海上アセットマネジメント投信株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第361号
加入協会：(社)投資信託協会、(社)日本証券投資顧問業協会

【留意事項】

■当資料は、東京海上アセットマネジメント投信が作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。お申し込みに当たっては必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧の上、ご自身でご判断ください。■当資料の内容は作成日時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。■当資料に掲載された図表などの内容は、将来の運用成果や市場環境の変動などを示唆・保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある証券など(外貨建資産に投資する場合には、為替変動リスクもあります)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本が保証されているものではありません。■投資信託は金融機関の預金とは異なり元本が保証されているものではありません。委託会社の運用指図によって信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資家に帰属します。■投資信託は、預金および保険契約ではありません。また、預金保険や保険契約者保護機構の対象ではありません。■登録金融機関から購入した投資信託は投資者保護基金の補償対象ではありません。

2011年2月

ごあいさつ	2
あなたのお金が貧困問題解決の手助けに。『新しい投資スタイルのファンド』	3
マイクロファイナンスとは	4
「大和マイクロファイナンス・ファンド」のポイント	5
マイクロファイナンス機関への直接的な投資 ～マイクロファイナンス機関への投資の流れ～	6
～マイクロファイナンスの事例 1・2～	7-8
～ DWMアセット・マネジメント社について～	9
相対的に高い利回り	10
国際分散投資 ～新興国を中心に分散投資～	11
為替および金利動向 ～米ドルに近い値動きと相対的に高い金利水準～	12
「大和マイクロファイナンス・ファンド」の特色	13-14
外国投資証券「DWMマイクロファイナンスファンドJークラスJ」のモデルポートフォリオについて	15
国際機関債の役割	16
〈ご参考〉 DWMアセット・マネジメント社の事業戦略と運用プロセス	17
〈ご参考〉 DWMアセット・マネジメント社のファンドマネージャーについて	18
当ファンドの主なリスク	19-21
ファンドの費用	22
お申込メモ(大和証券でお申し込みの場合)	23

- 欧米を中心に、“インパクト・インベストメント (Impact Investment)” という新たなトレンドが動き出しています。インパクト・インベストメントとは、経済的な利益を追求すると同時に、貧困や環境などの社会的な課題に対して解決を図る投資のことです。2009年9月の第5回クリントン・グローバル・イニシアチブにおいてグローバル・インパクト・インベスティング・ネットワーク (GIIN) が正式に立ち上がったのを機に、そのコンセプトが広く認知されることとなりました。
- インパクト・インベストメントへの関心が急速に高まっている背景には、いくつかの理由があります。まず、インパクト・インベストメントの対象の多くが途上国であり、投資利益を得ながら貧困層支援に貢献できる点が、「do well by doing good (良いことをしながら良い運用をしたい)」と考える投資家にとって大きな魅力となっていることです。また、既存のアセットクラスとの相関が低い点にも注目が集まっています。第二に、開発途上国支援や地球温暖化対策には莫大な資金が必要であること、民間資金の活用が欠かせないことから、制度面での整備や商品開発が進展していることも大きな要因です。第三に、もともと慈善活動からスタートしたマイクロファイナンスが収益性の高いビジネスへと発展を遂げたことが、インパクト・インベストメントに弾みがつく大きなきっかけとなりました。
- 大和証券ではこれまで、ワクチン債、マイクロファイナンス・ボンド、グリーン世銀債、ウォーター・ボンドなど、インパクト・インベストメント関連商品を販売してきました。日本にも社会貢献投資の動きを広めるべく、この分野における国内の第一人者として、インパクト・インベストメント商品の開発・販売に積極的に取り組んでいます。
- 今回のマイクロファイナンス・ファンドも、このような当社の取り組みから生まれました。投資信託を通じて、お客様の投資資金を直接マイクロファイナンス機関へ融資する仕組みが可能になり、インパクト・インベストメントの特徴である「直接的で即効性のある関与」が際立つこととなりました。
- 今後も大和証券は、資金を必要としている人と資金を持つ人とをつなぐ架け橋となり、投資家の皆さまとともに、貧困をはじめとするさまざまな問題の解決に寄与していきたいと考えております。

大和証券代表取締役社長 鈴木 茂晴

あなたのお金が貧困問題解決の手助けに。『新しい投資スタイルのファンド』

貧困問題の解決の手段として注目されている「マイクロファイナンス」……。

「大和マイクロファイナンス・ファンド」は、マイクロファイナンス機関への投資*を通じて、貧困層の起業を支援し、さらに投資によるリターン追求を目指す新しいスタイルのファンドです。

*主要投資対象の外国投資信託を通じてマイクロファイナンス機関への直接融資および国際機関等が発行する債券への投資を指します。

貧しい人々の自立支援



- 貧困層向けの金融事業であるマイクロファイナンスは、世界の貧困問題の解決に重要な役割を果たしています。
- 皆さまの投資資金は、当ファンドを通じて実質的にマイクロファイナンス機関などへ融資されることで、直接的に貧困問題の手助けとなります。

投資によるリターン追求



- 社会貢献事業を持続的に実施するためには、相応の対価を受け取ることも必要と考えます。
- マイクロファイナンス機関への融資や国際機関等が発行する債券への投資により得られるリターンを享受することができます。

『社会貢献』と『リターン追求』の両立=
インパクト・インベストメント! ※

新しい投資
のスタイル
です。

※インパクト・インベストメントとは、「貧困や環境などの社会課題の解決を目指すと同時に、経済的な利益も追求する投資のこと」です。

「大和マイクロファイナンス・ファンド」で新しい投資を始めませんか。

マイクロファイナンスとは

マイクロファイナンスとは・・・

主に新興国や途上国の貧しい人々に対して、起業や会社経営などの事業資金のために少額で無担保の融資を行うことや、貯蓄、保険などの金融サービスを提供することです。近年、貧困問題の解決手段として注目されています。

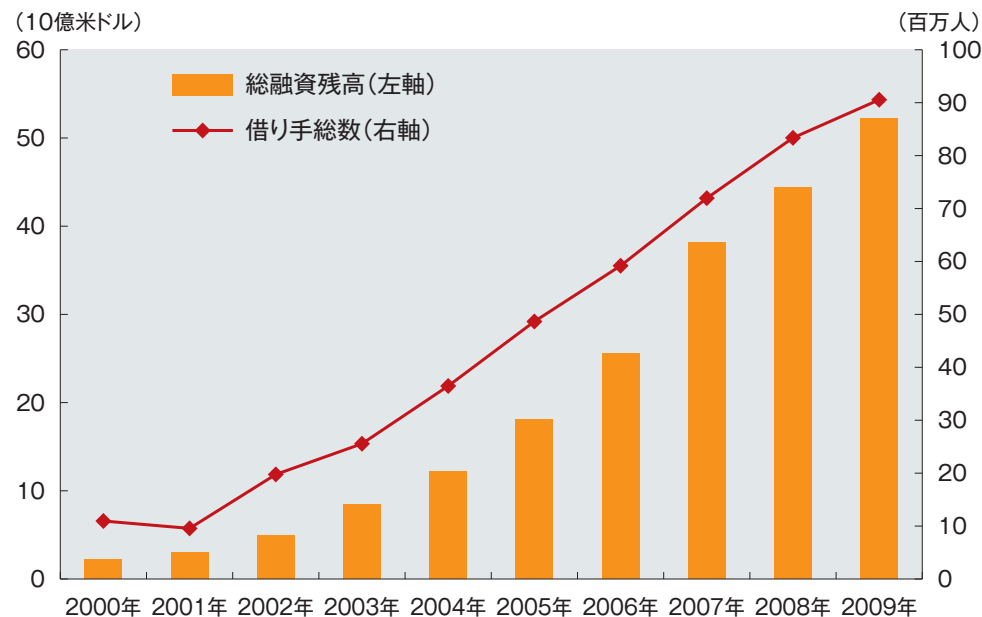
たとえば、これまでわずかの投資資金も工面できず、鶏を飼うこともできなかったような貧困層に、鶏を買うための短期融資を行います。卵や鶏肉を販売して融資を返済すると、次は豚を買う資金を融資するなど、借り手の状況を丹念に見極めながら自立を促すことが特徴です。

- 1970年代に始まったマイクロファイナンスは、世界的な貧困層の撲滅の動きやムハマド・ユヌス氏のノーベル平和賞受賞などもあり、社会貢献のひとつのスタイルとして注目が集まっています。
- 近年、マイクロファイナンスは総融資残高および借り手総数とも高い伸びを示しています。

マイクロファイナンスのこれまでの軌跡

1970年代	【マイクロファイナンスの始まり】 当時バングラデシュの大学教授だったムハマド・ユヌス氏が農村地域(ジョブラ村)の貧しい女性たち42人に無担保で総額27米ドルを貸し付けたことが始まり(諸説あります)。以降、アジアではバングラデシュ、インドの地方を中心にマイクロファイナンスが発展。同時に、中南米でも貧困層に対する小口融資が広がる。
～1990年代後半	【先進国の国際援助によるマイクロファイナンス機関(MFI)支援】
2000年	【国連ミレニアム・サミット開催】 国連ミレニアム宣言採択。そのひとつに貧困と飢餓の撲滅と2015年までに貧困人口を1990年比で半減することを掲げる。
2000年代半ば～	MFIの民間資金の獲得が活発に。
2005年	【国際マイクロクレジット年】
2006年	【ムハマド・ユヌス氏 ノーベル平和賞受賞】
2007年	メキシコのMFI バンコ・コンパルタモスが株式上場
2010年	インドのMFI SKSが株式上場

マイクロファイナンスの総融資残高と借り手総数の推移

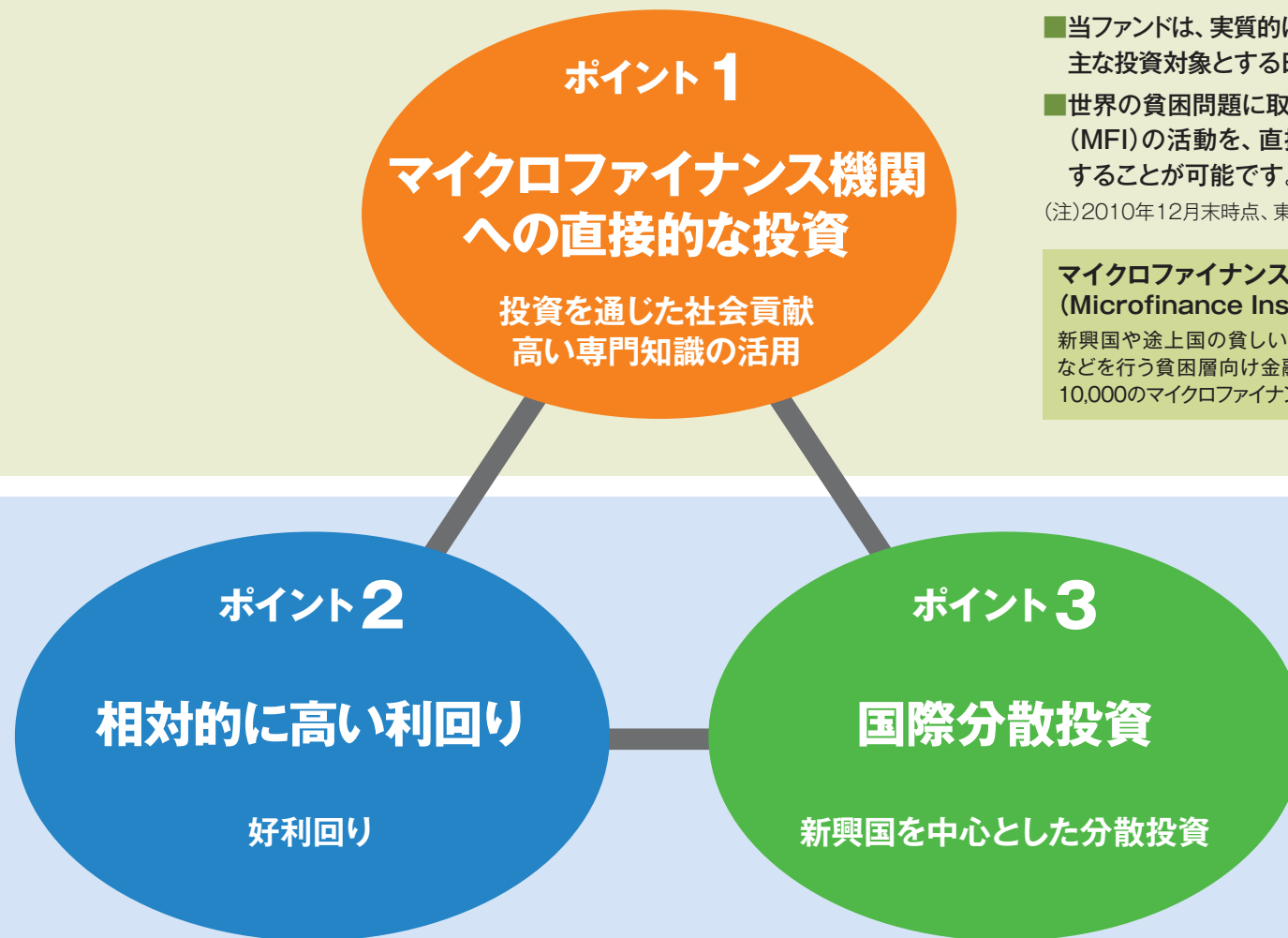


出所：DWMアセット・マネジメント社

「大和マイクロファイナンス・ファンド」のポイント

貧しい人々の
自立支援

投資による
リターン追求



■当ファンドは、実質的にマイクロファイナンス関連資産を主な投資対象とする日本初の証券投資信託です。(注)

■世界の貧困問題に取り組むマイクロファイナンス機関(MFI)の活動を、直接的な融資も含め資金面で支援することが可能です。

(注)2010年12月末時点、東京海上アセットマネジメント投信調べ。

マイクロファイナンス機関
(Microfinance Institutions:MFI)とは・・・

新興国や途上国の貧しい人々に対して、無担保で少額の融資などを行う貧困層向け金融サービスを提供する機関。現在、約10,000のマイクロファイナンス機関が存在するといわれています。

■マイクロファイナンス関連資産は、相対的に高い利回りが期待できます。

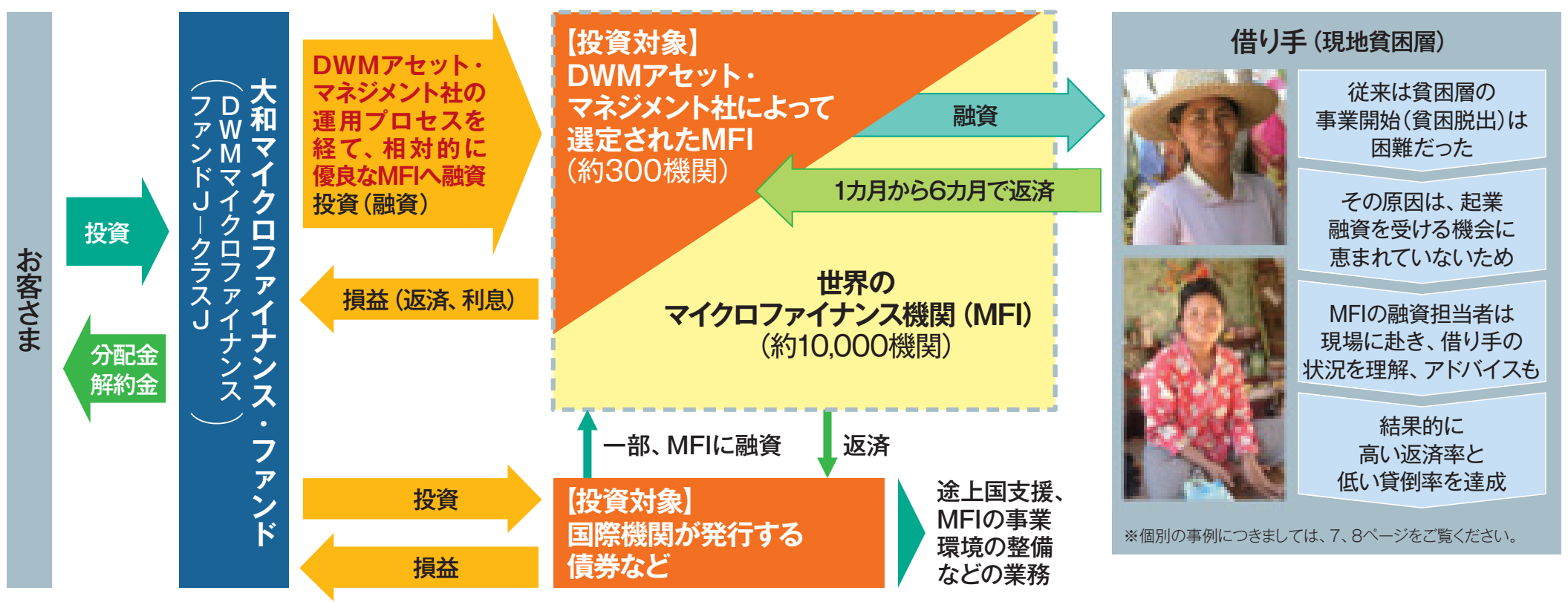
■新興国を中心に分散投資を行います。

■エマージング通貨建てで投資(融資)を行うことで、エマージング通貨への投資が可能となります。

マイクロファイナンス分野で実績のあるDWMアセット・マネジメント社の調査・運用力を活用して、相対的に優良なマイクロファイナンス機関(MFI)への融資や国際機関債への投資を行います。

〈イメージ図〉ファンドを通じたマイクロファイナンス機関への投資の流れ

■ …ファンドの投資範囲です。 → …ファンドにかかる資金の流れです。



※上図は一般的な概念を示したものであり、個別のマイクロファイナンス機関の状況は上図とは異なる場合があります。

出所：DWMアセット・マネジメント社

融資の借り手が提供する商品やサービスは持続的な需要に支えられていることや、比較的短期間かつ小口の融資となる場合が多いことなどから、一般的に返済率は高く、貸倒率も低い傾向にあります。

マイクロファイナンス機関	
MFI名	アクセスバンク
国名	アゼルバイジャン
総資産額	376百万米ドル
総融資残高	300百万米ドル
借り手総数(内、女性)	97,882人(26,038人)
貸倒率	0.07%

アクセスバンク(AccessBank)の概要：
 小規模・零細事業主のメインバンクを目指すアゼルバイジャンの有力マイクロファイナンス機関。拠点は首都バクー。

1990年代初頭から続いた隣国アルメニアとの紛争で、遊牧生活を余儀なくされたババイエヴさん一家は、一生懸命に家畜を育て牛を17頭、羊を80頭まで増やしましたが、生活はあまり改善しませんでした。そこで、牧場の整備を行い、家畜を増やすために、マイクロファイナンス機関から3,000米ドルの融資を受けて、4回の借り換えを行いながら、牛45頭、羊180頭まで増やすことができました。家計の蓄えも増え、将来2人の子供を大学に進学させることができる、と期待を膨らませています。



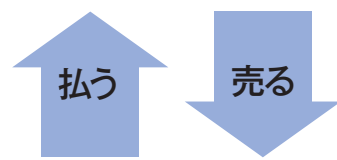
借り手(起業家)



Jahid Babayev
 (ジャヒド・ババイエヴ)さん

- 資金用途
 牧場の整備、家畜の購入





消費者

出所：MFI、MixMarket、DWMアセット・マネジメント社、2009年現在

※上記は一部の事例を紹介したものであり、また、特定のマイクロファイナンス機関に投資することをお約束するものではありません。

マイクロファイナンス機関	
MFI名	FMM ポパヤン
国名	コロンビア
総資産額	211百万米ドル
総融資残高	204百万米ドル
借り手総数(内、女性)	293,079人(200,765人)
貸倒率	1.45%



借り手(起業家)



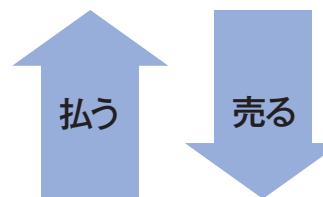
Narro Amparo
 (ナロ・アンパロ)さん

● 資金用途
 ミシンの購入




FMM ポパヤン(FMM POPAYAN)の概要：
 貧困地域の女性の社会参画を支援するウィメンズ・ワールド・
 バンキングのマイクロファイナンス・ネットワークに所属。拠点は
 スペイン植民地時の雰囲気を残すポパヤン。

地元市場で食品を販売していたときに、織物業を始める夢を持っていましたが、
 ミシンの購入資金が足りなかったため、マイクロファイナンス機関から融資を受けて
 いた友人からFMMポパヤンに連絡することを勧められました。これまで5回で
 1,800米ドルの融資を受け(すべて完済)、より高度なミシンを購入することが
 できました。主に手織りの布を作っていますが、織り上げた布を使って、学校の制服
 のような高品質な既製服も作り、自分の作業所で販売しています。



消費者

出所：MFI、MixMarket、DWMアセット・マネジメント社、2009年現在

※上記は一部の事例を紹介したものであり、また、特定のマイクロファイナンス機関に投資することをお約束するものではありません。

マイクロファイナンス機関への直接的な投資 ～ DWMアセット・マネジメント社について～



- DWMアセット・マネジメント社は、マイクロファイナンス運用を中心に社会貢献につながる資産への投資を行うデベロッピング・ワールド・マーケッツ(DWM)社(本社、米国コネチカット州)の一員で、マイクロファイナンスに特化した運用会社です。
- 300超のマイクロファイナンス機関と関係構築しており、この分野における先駆者としての強みを持っています。
- 同社の高い調査・運用力には定評があり、貸倒率は市場平均と比べ低くなっています。

DWMアセット・マネジメント社

(米国SEC監督下の米国登録資産運用会社)

所在地	800 Post Road, Darien, Connecticut 06820, USA
設立	1994年4月(前身となる会社の設立年月)
役職員数	34名(2010年12月末)
	以下は持ち株会社の情報です。
資本金	280万米ドル
株主	DWMパートナー 90% 蘭SNS Reaal 10%(オランダの大手金融機関)

デベロッピング・ワールド・マーケッツ(DWM)社
 (DWM Holdings, LLC) : 持株会社

マイクロファイナンス機関の資金調達ニーズに対応

DWMアセット・マネジメント社
(DWM Asset Management, LLC) : 資産運用

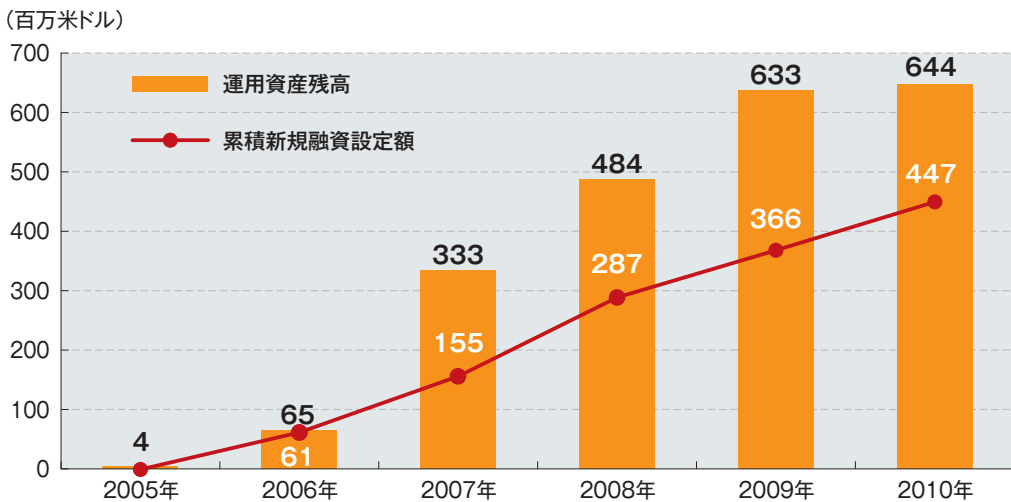
マイクロファイナンスを投資対象とした資産運用

- ✓機関投資家向けのファンド組成・開発力と信用調査力
- ✓1994年以来新興国対象の運用を継続

DWMファイナンス
(DWM Finance, LLC) : 投資銀行

マイクロファイナンス機関の証券化商品を組成・発行

運用資産残高の推移



※累積新規融資設定額には、一部借り換えを含んでいます。

マイクロファイナンス機関(MFI)の貸倒率(2009年)

MFIの貸倒率
(ここでは総資産に占める減損会計処理の割合)

市場全体*	2.00%
DWMアセット・マネジメント社の運用ローン	1.28%

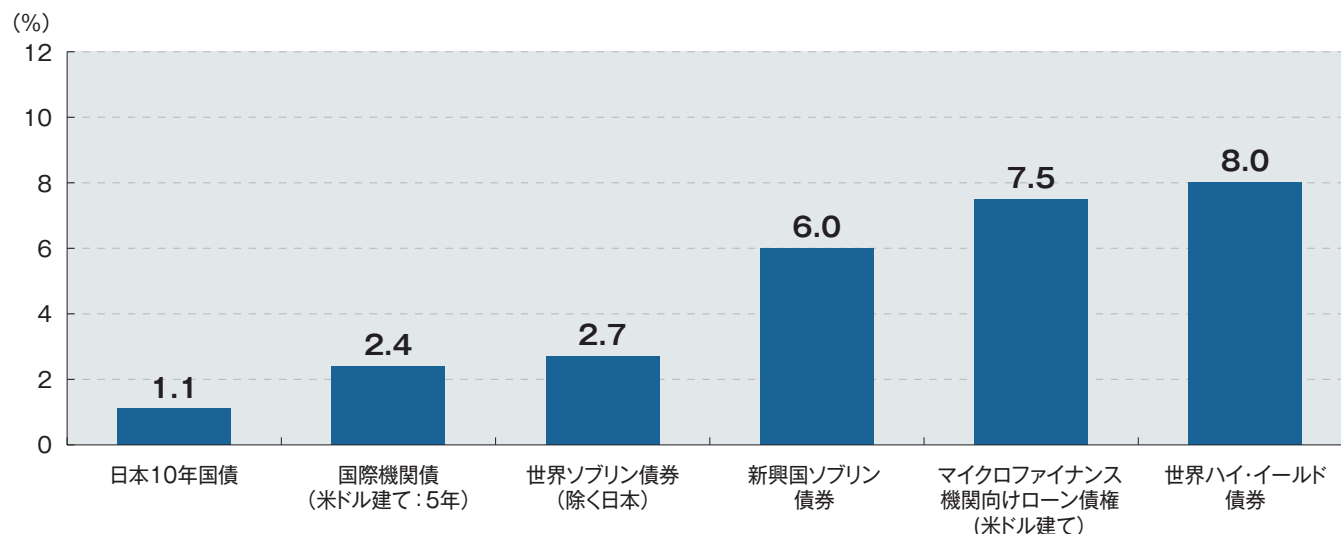
(2009年現在)

*世界銀行の関連組織であるCGAPが発行するCGAP 2010 MIV Surveyの数字で、調査対象の73のマイクロファイナンス・インベストメント・ビークル(MIV)(含むDWMアセット・マネジメント社)のマイクロファイナンス機関向けローンのうち、2009年の減損処理金額として報告された数字を用いて計算。

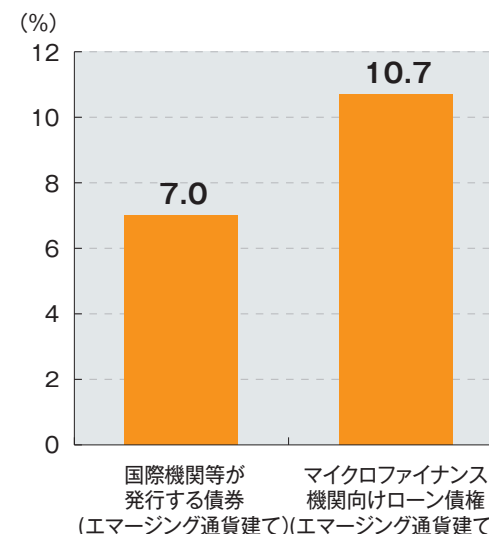
出所: CGAP "CGAP 2010 MIV Survey"、DWMアセット・マネジメント社

- マイクロファイナンス機関向けのローン債権の期待利回りや国際機関等が発行する債券の利回りは、主要債券に比べて相対的に高い傾向にあります。
- 一般的に、マイクロファイナンス機関への融資は、エマージング通貨建ての場合、現地の短期金利に上乗せ金利を加えた金利で融資が実行され、先進国通貨建ての場合は、先進国の短期金利に上乗せ金利を加えた金利で融資が実行されます。

ローン債権や国際機関等が発行する債券と主要債券との利回り比較 (2010年12月末)



日本10年国債: 指標国債10年複利 国際機関債(米ドル建て: 5年): ブルームバーグ算出の5年国際機関債
 世界ソブリン債券(除く日本): シティグループ世界国債インデックス(除く日本)
 新興国ソブリン債券: JPMorgan EMBI GLOBAL DIVERSIFIED、米ドル
 マイクロファイナンス機関向けローン債権(米ドル建て):
 DWMアセット・マネジメント社の融資実績のあるMFIに新規融資を行った場合の想定利回りの加重平均
 世界ハイ・イールド債券: BofAメリル・リンチ グローバル・ハイ・イールド・インデックス、米ドル



国際機関等が発行する債券(エマージング通貨建て):
 当ファンドが投資対象とする外国投資証券における想定組入国際機関債等の利回りの加重平均
 マイクロファイナンス機関向けローン債権(エマージング通貨建て):
 DWMアセット・マネジメント社の融資実績のあるMFIに新規融資を行った場合の想定利回りの加重平均

※マイクロファイナンス機関向けローン債権の利回りは、DWMアセット・マネジメント社が想定する期待利回りであり、過去の実績ではありません。その他の債券は過去の実績であり、どちらも将来の動向などを示唆・保証するものではありません。また、実際のファンドに組み入れる債券およびローン債権の利回りではありません。

*上記で使用するインデックスは、シティグループ、JPMorgan、BofAメリル・リンチが公表する指数であり、その知的財産は各社に帰属します。また、各社は対象インデックスについて、正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではありません。

出所: ブルームバーグ、Thomson Datastream、DWMアセット・マネジメント社

- 当ファンドは、実質的にMFIへの融資および国際機関等が発行する債券への投資はエマージング通貨建てで行い、新興国を中心に幅広い国(通貨)へ分散投資を行います。
- 当ファンドが実質的に主に投資を行う新興国は、先進国と比較して相対的に高い経済成長を遂げると考えられます。

当ファンドの主な投資対象予定国(通貨) (注)

(注)当ファンドの主要投資対象である「DWMマイクロファイナンスファンドJークラスJ」の投資対象予定国(通貨)
2010年12月現在

2010年12月末時点の当ファンドが投資対象とする外国投資証券が想定している
主な投資対象予定国(通貨)であり、下記の国に必ずしも投資するとは限りません。
また、下記以外の国に投資する場合があります。



国名	格付け	実質GDP成長率
ブラジル	BBB+	7.5%
南アフリカ	A+	3.0%
メキシコ	A	5.0%
インド	BBB-	9.7%
ロシア	BBB+	4.0%
アゼルバイジャン	BBB-	4.3%
ペルー	BBB+	8.3%
モンゴル	BB-	8.5%
ハンガリー	BBB	0.6%
ルーマニア	BBB-	-1.9%
カンボジア	B+	4.8%
カザフスタン	BBB+	5.4%
アルメニア	BB	4.0%
タジキスタン	-	5.5%
グルジア	BB-	5.5%
グアテマラ	BB+	2.4%
フィリピン	BB+	7.0%
エジプト	BBB-	5.3%
インドネシア	BB+	6.0%

(ご参考)

国名	格付け	実質GDP成長率
米国	AAA	2.6%
日本	AA	2.8%

※上記は将来の動向などを示唆・保証するものではありません。また、今後の投資対象予定国(通貨)は変更される場合があります。

※格付けは自国通貨建て長期債格付け(2010年12月末時点)のうち、ムーディーズ社、S&P社、フィッチ社の中でもっとも高い格付けを使用し、S&P社の表記に統一。実質GDP成長率は2010年(予測値)を使用。

出所: ブルームバーグ、IMF、Thomson Datastream

- 当ファンドは実質的に新興国に幅広く分散投資を行います。投資対象予定国の為替(対日本円)はおおむね米ドルと同様の値動きをしています。
- 当ファンドが実質的に投資対象とする国の短期金利は、米国金利と比較して相対的に高い傾向にあります。

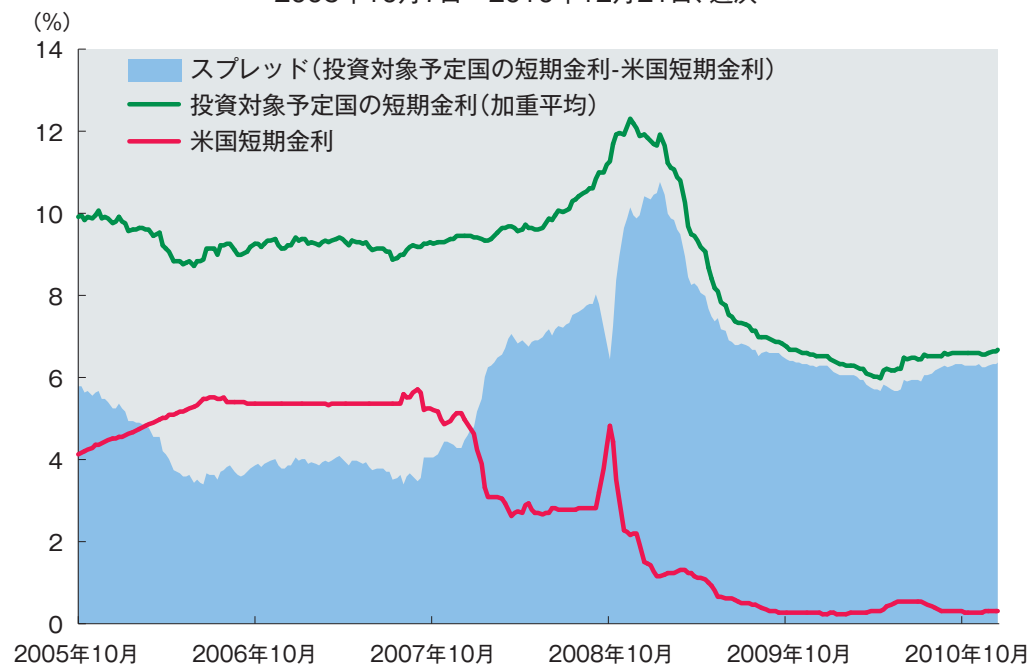
投資対象予定国通貨の推移(対日本円)

2004年1月12日~2010年12月31日、日次



投資対象予定国と米国の短期金利の推移

2005年10月7日~2010年12月21日、週次



※上記投資対象予定国の通貨および短期金利の合成指数は、2010年12月末時点のモデルポートフォリオ上位10カ国の投資総額(モデルポートフォリオの投資総額(現預金を除く)の90%程度)を基に加重平均したものです。米国の短期金利は、LIBOR(3カ月)を使用しています。10カ国は、ブラジル、南アフリカ、メキシコ、インド、ロシア、アゼルバイジャン、ペルー、モンゴル、ハンガリー、ルーマニアです。

※上記は過去の実績であり、将来の動向などを示唆・保証するものではありません。また、ファンドの利回りや実際のファンドに組み入れるローン債権や債券の利回りを示すものではありません。

出所：Thomson Datastream、DWMアセット・マネジメント社

「大和マイクロファイナンス・ファンド」の特色

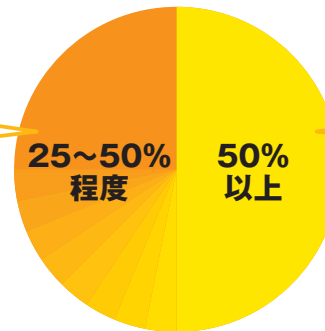
1 世界の貧困問題に取り組むマイクロファイナンス機関(Microfinance Institutions: MFI)の活動を、直接的な融資も含め資金面で支援するファンドです。

- MFIの事業環境の整備に積極的に取り組む国際機関等が発行する債券に投資するとともに、MFIに対する直接的な融資を行うことで、投資資金が新興国・発展途上国の貧困問題の解決に活用されるような投資を行います。

〈イメージ図〉

MFIへの直接融資(ローン債権)やMFI発行の社債*
(ポートフォリオの25%~50%程度)

※MFIへの直接融資は、ファンド規模や大口の資金流入・流出、経済情勢によっては実行までにある程度の期間を要する場合があります。MFIへの直接融資やMFI発行の社債の組入比率は、一部解約などにより、一時的にポートフォリオの50%を超える場合があります。



MFIの事業環境の整備に積極的に取り組む国際機関等が発行する債券(ポートフォリオの50%以上)

2 実質的な運用は、マイクロファイナンスに特化した運用会社であるDWMアセット・マネジメント社が行います。

- 主として、世界のマイクロファイナンス関連の債券などを主要投資対象とする外国投資証券「DWMマイクロファイナンスファンドJ-クラスJ」と、円建て短期公社債などを主要投資対象とする「東京海上マネーマザーファンド」受益証券に投資を行い、ファンド・オブ・ファンズ方式で運用を行います。なお、運用に当たっては外国投資証券を高位に組み入れます。
- 「DWMマイクロファイナンスファンドJ-クラスJ」の運用は、マイクロファイナンス分野で経験豊富なDWMアセット・マネジメント社が行い、同社の調査・運用力を最大限活用します。

〈当ファンドのしくみ〉



※市況動向などの事情によっては上記の運用ができない場合があります。

「大和マイクロファイナンス・ファンド」の特色(続き)

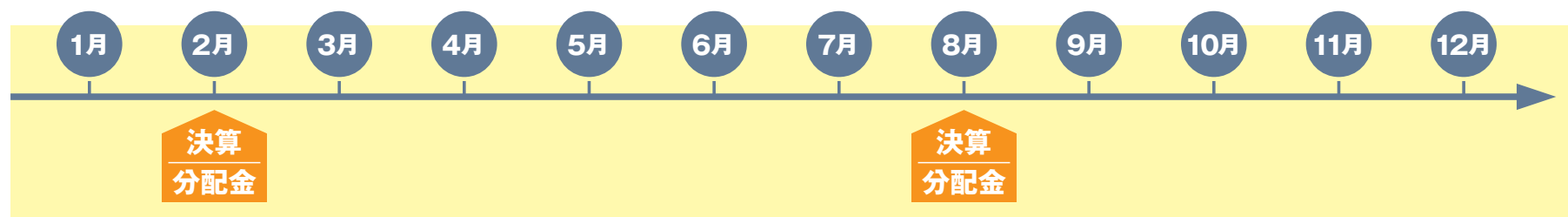
3 実質的な運用に当たっては、投資対象国(通貨)を幅広く分散することを基本とします。

- 投資対象通貨を選定する際は、投資適格(BBB格)相当以上の格付けを有する国を中心としますが、一部、それら以外の通貨建資産に投資する場合があります。
- 実質組入外貨建資産に対しては、原則として為替ヘッジを行いません。

4 年2回決算を行います。

- 原則として、2月および8月の各23日(休業日の場合は翌営業日)に決算を行い、分配方針に基づいて分配を行います。
 - ◆収益分配金額は、委託会社が基準価額の水準、市況動向などを勘案して決定します。
 - ◆分配対象額が少額の場合などは、分配を行わない場合があります。

〈イメージ図〉



※上図はイメージ図であり、将来の収益分配をお約束するものではありません。実際の分配金額は運用実績に応じて決定されます。

外国投資証券「DWMマイクロファイナンスファンドJークラスJ」の モデルポートフォリオについて

当ページの内容は、2010年12月末時点における市場環境に基づいてシミュレーションした内容をご紹介しているものであり、投資国や比率、利回りなどは変動する場合があります。設定後のポートフォリオを示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりませんので実際の投資成果を示すものではありません。

モデルポートフォリオの投資対象予定国(通貨)

投資対象予定国(通貨)	MFI向け融資 ^(注1)	国際機関債 ^(注1)	比率 ^(注2)
ブラジル	0%	33%	20%
南アフリカ	0%	31%	19%
メキシコ	9%	23%	17%
インド	22%	0%	9%
ロシア	8%	9%	9%
アゼルバイジャン	12%	0%	5%
ペルー	12%	0%	5%
モンゴル	7%	0%	3%
ハンガリー	0%	4%	3%
ルーマニア	5%	0%	2%
カンボジア	5%	0%	2%
カザフスタン	4%	0%	1%
アルメニア	4%	0%	1%
タジキスタン	3%	0%	1%
グルジア	2%	0%	1%
グアテマラ	2%	0%	1%
フィリピン	2%	0%	1%
エジプト	1%	0%	1%
インドネシア	1%	0%	0%
合計	100%	100%	100%

(注1)各資産の投資総額に対する国別比率

(注2)ポートフォリオの投資総額(現預金を除く)に対する国別比率

モデルポートフォリオの資産別比率と期待利回り

資産	銘柄数	比率	期待利回り
MFI向け融資	43機関	38.4%	10.6%
国際機関債	34銘柄(7機関)	57.9%	7.0%
現預金	—	3.7%	1.0%
モデルポートフォリオ全体			8.1%

※MFI向け融資の期待利回りは、融資見込みのMFIに新規融資を行った場合の想定利回りです。

※MFI向け融資の組入れには時間を要します。

モデルポートフォリオの格付別比率

格付	比率
AAA	57.9%
AA	0.0%
A	3.6%
BBB	24.8%
BB	6.9%
B	1.8%
CCC以下	0.0%
格付なし	1.3%
現預金	3.7%

※格付は、本国通貨建て長期債格付(2010年12月末時点)のうち、ムーディーズ社、S&P社、フィッチ社の中で最も高い格付を使用し、S&P社の表記に統一。+/-の表記は省略。

※MFI向け融資の格付は、融資実施予定国の格付を使用。

出所：DWMアセット・マネジメント社、ブルームバーグ

国際機関債の役割

- 国際機関債とは、国際機関が加盟国の公平で持続可能な経済成長の支援を目的とした、資金調達的手段として発行する債券です。
- マイクロファイナンス機関(MFI)は国際資本市場へのアクセスがないため、国際機関が自己の信用力を背景にMFIに投資するための債券を発行するなど、重要な仲介役となっています。また、MFIの活動に対する環境整備として、経済社会の安定化・インフラ整備の促進も行っています。
- 当ファンドの流動性を確保するため、ポートフォリオの50%以上を国際機関等が発行する債券へ投資を行います。

《主な国際機関のご紹介》

国際機関債の通貨別発行状況

2010年11月

エマージング通貨建て：
50億米ドル

当ファンドでは、原則として国際機関が発行するエマージング通貨建ての債券に実質的に投資を行います。

先進国通貨建て：
650億米ドル

欧州投資銀行

EUの長期貸付機関としてEUの発展に寄与することを目的としています。また、同機関は2000年よりマイクロファイナンス機関などへの支援を行っています。

格付け：AAA

国際復興開発銀行

途上国の貧困緩和に向けた活動を支援するために、これらの国々における持続的成長、生活水準の向上に資するプロジェクトなどに、長期の貸付・融資などを行っています。

格付け：AAA

欧州復興開発銀行

中東欧諸国における民主主義、市場経済への移行の支援を目的に設立されました。また、金融機関の仲介機能の役割を拡大することも強化しており、以前は各種金融サービスを受けられなかった層も、サービスを受けられるようになりました。

格付け：AAA

米州開発銀行

中南米・カリブ加盟諸国の地域内・国内の経済格差の解消や環境に配慮した開発課題に取り組むことで、中南米・カリブ地域の持続的な経済発展支援を行っています。

格付け：AAA

■国際機関のマイクロファイナンス関連投資の主な実績

- ・欧州投資銀行：約30のマイクロファイナンス関連プロジェクト(仲介業務を含む)に約6.54億ユーロを投資。(2009年12月末時点)
- ・国際復興開発銀行：約50カ国、73のプロジェクトを通じて約20億米ドルをマイクロファイナンス関連に投資。(2010年6月末時点)

※上記は一部の国際機関を紹介したものであり、当該発行体の債券に投資することをお約束するものではありません。

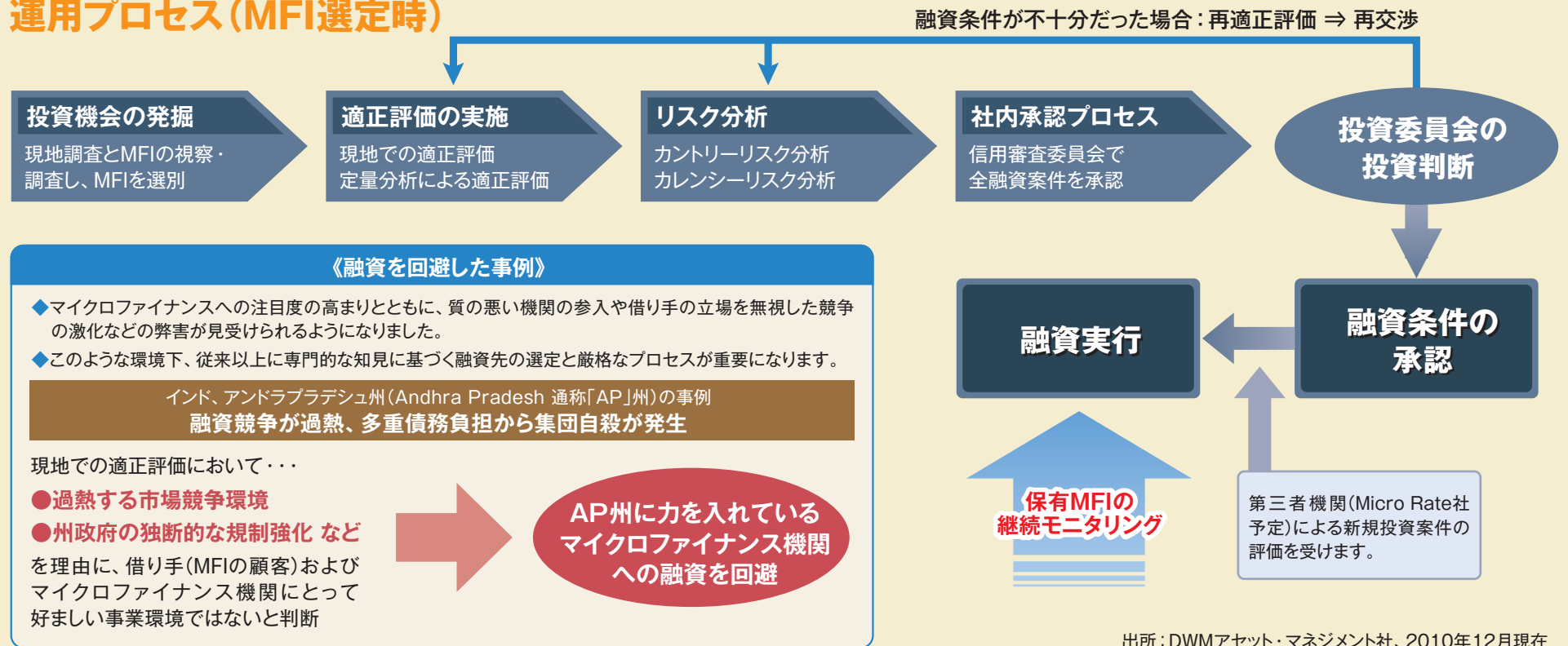
出所：DWMアセット・マネジメント社、各機関HP

〈ご参考〉DWMアセット・マネジメント社の事業戦略と運用プロセス

事業戦略

- ◆すべての新興・途上国の貧困層に対する金融サービスを育成します。
- ◆マイクロファイナンス機関の事業強化と成長を支援します。
- ◆国際金融・資本市場とマイクロファイナンス機関を結び付けます。
- ◆マイクロファイナンス機関の資金ニーズに合う資金調達ソリューションを開発し、財政的に困難な起業家の事業成長と発展を支援します。

運用プロセス(MFI選定時)



出所：DWMアセット・マネジメント社、2010年12月現在

〈ご参考〉DWMアセット・マネジメント社のファンドマネージャーについて

マイクロファイナンス ローン運用責任者



ジェームズ・カッダラス
(James C. Kaddaras)

パートナー

担当分野:

ローン債権・組成・法務

- ▶ 2005年にDWMアセット・マネジメント社にパートナーとして入社。
- ▶ 同社クレジットおよび投資政策委員会メンバー。マイクロファイナンス・ローン運用を統括。
- ▶ また、弁護士として法務に精通し、同社の取引や業務上の法律面を担当。前職は、アクシオン(ACCION International)のバイス・プレジデントとしてラテンアメリカやアフリカのマイクロファイナンス機関に投資するファンドを開発、運用。アクシオン以前はバンク・ボストン(BankBoston)の国際弁護士として活躍。
- ▶ 米ジョージワシントン大学ロースクール(JD)および米タフツ大学(BA)卒。フランス語、ギリシャ語、ポルトガル語、スペイン語を話し、ドイツ語およびイタリア語にも精通。

マイクロファイナンス 債券運用責任者



ジュディ・カースト-コルクマン
(Judy Kirst-Kolkman)

パートナー

担当分野:

ファンド・マネジメント兼債券運用

- ▶ DWMアセット・マネジメント社の創業パートナー。
- ▶ 同社クレジットおよび投資政策委員会メンバー。同社のファンドの運用業務に従事。またカースト-コルクマンが開発に携わったエマーシング・カントリー・マーケット分析は、同社をはじめ他の金融機関などでも採用。
- ▶ ラテンアメリカのマイクロファイナンス機関に融資する非営利団体プロ・ムジェ(Pro Mujer International)の融資プログラム委員など複数の非営利団体の理事を歴任。
- ▶ 米パーデュー大学卒(BA)。スペイン語を話す。

当ファンドの主なリスク

当ファンドは、値動きのある有価証券などを投資対象としますので、基準価額は変動します。したがって、当ファンドは**元本が保証されているものではありません**。

委託会社の運用指図によって**信託財産に生じた利益および損失は、全て投資者に帰属します**。

当ファンドへの投資には主に以下のリスクが想定され、これらの影響により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

マイクロファイナンス投資にかかるリスク	<p>マイクロファイナンス機関(MFI)への投資は高いリスクを伴います。主なリスクの要因は以下の通りですが、これらの影響によりMFIの返済能力が低下し、元金金の支払いが滞るような場合には、当該MFIへの投資(融資、社債など)の評価額を減額することにより、基準価額が下落する要因となります。</p> <ul style="list-style-type: none">・MFIは小規模組織なため、企業統治において高いガバナンスリスクがあります。・MFIは新興国の中でも中小規模の国で活動しています。・MFIによる小口融資は原則として無担保です(MFIにより異なります)。・MFIは国際資本市場から投融資を受け入れる経験が不足しており、経営陣の経営力も不十分です。・MFIの管理職や支店レベルでの不正や汚職のリスクがあります。・多くのMFIが金融当局の規制対象外の金融機関です。・MFIが活動する国における国内政治、経済、規制上のリスクがあります。・MFIの経営には自然災害のリスクがあります。・MFIの会計基準が各国で不規則です。・MFIの小口融資の信用リスクに一定の基準がありません。
金利変動リスク	<p>公社債は、一般に金利が上昇した場合には価格は下落し、反対に金利が下落した場合には価格は上昇します。したがって、金利が上昇した場合、基準価額が下落する要因となります。一方、ローン債権は、変動金利のものが多く、それらは金利の変動によって将来受け取る利息が変動します。また、ローン債権は市場で調達するものではなく個別に相対で組成するため、資産価値は必ずしも市場金利の動きとは一致しない場合があります。</p>

※詳細は投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

当ファンドの主なリスク (続き)

信用リスク	一般的に、公社債や短期金融商品などの発行体にデフォルト（債務不履行）が生じた場合、またはデフォルトが予想される場合には、当該公社債などの価格は大幅に下落することになります。したがって、組入公社債などにデフォルトが生じた場合、またデフォルトが予想される場合には、基準価額が下落する要因となります。組入ローン債権の債務者にデフォルトが生じた場合、またデフォルトが予想される場合には、組入ローン債権の評価額を減額するなどの措置を行うことにより、基準価額が下落する要因となります。
為替変動リスク	外貨建資産の円換算価値は、資産自体の価格変動の他、当該外貨の円に対する為替レートの変動の影響を受けます。為替レートは、各国・地域の金利動向、政治・経済情勢、為替市場の需給その他の要因により大幅に変動することがあります。組入外貨建資産について、当該外貨の為替レートが円高方向にすすんだ場合には、基準価額が下落する要因となります。
カントリーリスク	投資対象国・地域において、政治・経済情勢の変化、天候、自然災害などにより市場に混乱が生じた場合、または取引に対して新たな規制が設けられた場合には、基準価額が予想以上に下落したり、投資方針に沿った運用が困難となることがあります。また、投資対象国・地域には新興国が含まれています。新興国を取巻く社会的・経済的環境は不透明な場合もあり、金融危機、デフォルト、重大な政策変更や様々な規制の新たな導入などによる投資環境の変化が、先進国への投資に比べてより大きなリスク要因となることがあります。さらに、新興国においては市場規模が小さく流動性が低い場合があり、そのため証券価格の変動が大きくなる場合があります。
流動性リスク	受益者から解約申込があった場合、組入資産を売却することで解約資金の手当てを行うことがあります。その際、組入資産の市場における流動性が低いときには直前の市場価格よりも大幅に安い価格で売却せざるを得ないことがあります。また、ローン債権は、市場性に欠け、流通市場はありません。そのため、組入ローン債権を売却する必要がある際には、相対で買い手を見つける必要があり、買い手が見つかった場合でも、その価格は買い手にとって非常に有利な条件となることが想定されます。これらの場合、基準価額が下落する要因となります。

※詳細は投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

〈その他の留意点〉

- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- 当ファンドが投資対象とするマザーファンドを投資対象とする他のベビーファンドに追加設定・解約等に伴う資金変動などがあり、その結果、当該マザーファンドにおいて売買等が生じた場合などには、当ファンドの基準価額に影響を及ぼす場合があります。
- 当ファンドが投資対象とする外国投資証券が存続しないこととなる場合は、当ファンドを繰上償還させます。

外国投資証券が投資するローン債権について

- ◆当ファンドが主要投資対象とする外国投資証券（ファンド）は、MFIに対して直接融資を行います。ファンドが投資するローン債権は、当該融資契約の債権（金銭債権）となります。
- ◆当該融資契約はファンドとMFIの相対契約であるため、そのローン債権を売却するためには、新たに買い手を見つける必要があり、また、買い手が見つかった場合でも、その価格は買い手にとって非常に有利（売り手であるファンドにとって非常に不利）な条件となることが想定されることから、組入ローン債権を途中売却することを極力回避する運営を行います。
- ◆ファンドは、受益者のご換金請求に伴い、組入ローン債権を途中売却しなければ換金資金を準備できなくなる可能性が高まったと判断した場合などには、ファンドの換金の受付を中止します。これに伴い、当ファンドのご換金請求の受付を中止することや取り消すことがあります。ファンドは、受益者のご換金請求に伴う換金資金を、流動性がある有価証券（ローン債権は有価証券ではありません）を売却することにより手当てします。ファンドは、原則として有価証券の組入比率を50%超とすることとしていることから、当該比率が50%以下になる可能性が高まったと判断した場合が、上記組入ローン債権を途中売却しなければ換金資金を準備できなくなる可能性が高まったと判断した場合に該当します。
- ◆ファンドにおけるローン債権は簿価（融資額の元本など）で評価を行います。融資先のMFIの信用状況は、第三者機関によって定期的にモニタリングが行われており、必要に応じて評価額を減額するなどの措置を行います。

※詳細は投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料	購入金額に下記の購入時手数料率を乗じて得た額とします。		購入金額： (申込受付日の翌営業日の基準価額/1万口)×申込口数(当初1万口=1万円)
	購入金額	手数料率(税込)	
	5,000万円未満	3.150%	
	5,000万円以上5億円未満	1.575%	
	5億円以上	0.525%	
換金(解約)手数料	ありません。		
信託財産留保額	ありません。		

お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 (信託報酬)	<p>当ファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬を加えた実質的な信託報酬の上限は年1.9765%(税込)程度となります。 ※当ファンドならびに当ファンドが投資対象とする投資信託証券にかかる信託報酬は以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当ファンド …………… 信託財産の純資産総額に対し、年1.0815%(税抜1.03%) ・DWMマイクロファイナンスファンドJ-クラスJ …… 純資産総額に対し、年0.895% *ただし、管理会社の信託報酬(年0.07%)は、125,000米ドルに満たない場合は、125,000米ドルとします。 ・東京海上マネーマザーファンド …………… 信託報酬はかかりません。
その他の費用・ 手数料	<p>信託財産の財務諸表の監査に要する費用(純資産総額に対し、税込年0.0105%(上限年63万円))、信託事務などに要する諸費用、立替金の利息、組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、外国における資産の保管などに要する費用、借入金の利息および組入投資信託証券においてかかる費用などが保有期間中、その都度かかります。 ※監査費用を除くこれらの費用は実際の取引などにより変動するため、事前に料率、上限額等を表示することができません。</p>

※上記手数料等の合計額については、保有期間などに応じて異なりますので、あらかじめ表示することができません。

※詳細は投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

お申込メモ (大和証券でお申し込みの場合)

購入単位	1,000円以上1円単位※または1,000口以上1口単位 ※購入時手数料および購入時手数料に対する消費税等に相当する金額を含めて、1,000円以上1円単位で購入いただけます。
購入価額	①当初申込期間:1万口当たり1万円 ②継続申込期間:購入申込受付日の翌営業日の基準価額(1万口当たり)
換金代金	原則として、換金請求受付日から起算して、6営業日目からお支払いします。
申込受付中止日	ニューヨーク証券取引所、ロンドン証券取引所、ダブリンの銀行およびルクセンブルグの銀行のいずれかの休業日
申込締切時間	原則として午後3時までとします。受付時間を過ぎてからのお申し込みについては、翌営業日受付の取り扱いとなります。
購入の申込期間	①当初申込期間:2011年2月14日から2011年2月28日まで ②継続申込期間:2011年3月1日以降
設定日	2011年3月1日
当初募集額	500億円を上限とします。
購入・換金申込受付の中止及び取り消し	取引所における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申し込みの受け付けを中止することおよび既に受け付けた購入・換金のお申し込みの受け付けを取り消すことがあります。また、組み入れた外国投資証券の換金が出来なくなった場合には、換金のお申し込みの受け付けを中止することおよび既に受け付けた換金のお申し込みの受け付けを取り消すことがあります。
信託期間	原則として、2011年3月1日から2021年2月23日まで
繰上償還	主要投資対象とする外国投資証券が存続しないこととなる場合は繰上償還となります。また、信託期間中において、信託契約の一部を解約することにより受益権の総口数が10億口を下回ることとなったとき、信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、信託を終了させることがあります。
決算日	2月および8月の各23日(年2回。ただし、当日が休業日の場合には翌営業日とします。)
収益分配	年2回の決算時に収益分配方針に基づき、収益分配を行います。 (注)当ファンドには、「分配金再投資コース」と「分配金支払いコース」があります。 ・分配金再投資コースをご利用の場合:収益分配金は、税金を差し引いた後、無手数料で自動的に再投資されます。 ・分配金支払いコースをご利用の場合:収益分配金は、税金を差し引いた後、原則として決算日から起算して5営業日までにお支払いします。
信託金の限度額	1,000億円を上限とします。
委託会社	東京海上アセットマネジメント投信株式会社
受託会社	三菱UFJ信託銀行株式会社
販売会社	大和証券株式会社 ほか

※お申込メモの内容は、作成日時点のものであり、変更になることがありますのでご注意ください。

※詳細は投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。